

漆芸美術館だより



「重要無形文化財保持者認定 70 年 漆芸の人間国宝たち」より
大谷早人（2020 年認定）《藍胎蒔醬十二角食籠「清流」》（個人蔵）

103

重要無形文化財保持者認定 70 年 漆芸の人間国宝たち
ミュージアムショップからのお知らせ
友の会 夏季見学会実施報告
イベント情報

2025 年 7 月 26 日発行

漆芸の人間国宝たち

会期

2025年7月26日(土) ～ 10月13日(月・祝)

※会期中、館内外の修繕工事を実施する可能性があります。工事内容によっては臨時休館、会期終了日が変更となる場合があります。ご了承ください。決まり次第当館公式ウェブサイト、SNSにてお知らせいたします。

無形文化財とは、芸能や工芸技術における高度な「技」のことです。前年に改正された文化財保護法を受けて、1955年にこれを将来に向け積極的に保護発展するべく「重要無形文化財」として指定し、その「保持者」（いわゆる「人間国宝」）を初めて認定してから本年は70年を迎えます。本展覧会では、全ての漆芸技法の重要無形文化財保持者24名及び2つの保持団体による作品を網羅し、時代を越えて息づく技と各個が編み出した色とりどりの創造性に迫ります。

漆芸における重要無形文化財には、多岐にわたる技術が指定されています。表面に漆で絵を描き、固まる前に金銀粉等を蒔き付けて文様を表す「蒔絵」はわが国で独自の発展を遂げた装飾技法で、技量と創意工夫によって表現の幅は際限なく広がります。その保持者である高野松山（図1）は学校教育の中で精緻かつ多彩な蒔絵技法や変塗を修得し、複雑なテクスチャを生かしつつ大胆な構成を取り入れ従来の加飾とは一線を画しました。日本の情景や古典意匠を描き出した松田権六（図2）の研出蒔絵からは優雅さ

が香り立ち、楽浪郡出土漆器の保存修理をはじめとする文化財の調査研究により培われた、技術や美意識に対する深い理解や洞察が伺われます。

地域と密接に関係した技術もまた、保護の対象となっています。香川県高松市では江戸時代後期以降、中国や東南アジアの漆芸技法の研究

再現が進められ、讃岐漆芸の礎が築かれました。塗り重ねた漆の層を彫り下げる「彫漆」、刃物で表面に文様を彫り異なる色の漆を埋め込む「蒔髹」等の装飾技法が盛んとなり、これらを受け継ぎ鍛え上げた重要無形文化財保持者が多数

輩出しています。音丸耕堂（図3）は「彫漆」で鮮やかな配色の積層を出現させ、新鋭な文様を創出しました。大谷早人（表紙）は端正でありながら親しみやすさを備えた籃胎の器形に、柔らかな色相の「蒔髹」を融合させ、漆芸の新しい魅力を訴えかけます。

今や絢爛かつ精巧な美術工芸品で注目を集めるようになった輪島ですが、もとは無地の実用品から出発した産地であり、「髹漆」に高水準の技が継承されていることは当然ともいえます。輪島ならではの塗りの優美さを繊細な乾漆造形によって際立たせた塩多慶四郎（図5）、籃胎や



図1 高野松山（1955年認定）
《蝦模様蒔絵手箱》



図2 松田権六（1955年認定）
《片輪車蒔絵火鉢》



図3 音丸耕堂（1955年認定）
《彫漆カトレヤ菓子器》

曲輪造による素地成形を修得し、高い髹漆技術によって網代や構造そのものをも美の要素とした小森邦衛（図7）が保持者として認定されています。

一方、「沈金」は独自の発展を遂げた装飾技法として知られています。前大峰（図4）は徒弟制度に学び技法を身に着け、鑿（のみ）の刃先を改良したり、点彫を行うことによって、従来では表せないような豊かな階調を生み出しました。彼を父に持つ前史雄（図6）は、器物の中に絵画的な広がりをもたらし、なおかつ空気感をも如実に描く刀法に創意工夫や高い技量を見せています。山岸一男（図8）は沈金の「彫り」の技術を深く追究し、漆や金粉等を充填する「象嵌」で新境地を切り開きました。幾何的な構成に悠然たる能登の情景を投影し、有機的な曲線によって生命の精妙さをとらえます。極小の点彫りに金銀の精細な輝きをまとうせる西勝廣（図9）は、あたりまえの風景に埋没してしまうような小さな植物を慎ましくも潔く称揚します。沈金は塗りの表面に刃物で文様を彫る技法であり、上質な上塗りなしには完成しえません。分業によって今日まで続く伝統産業への厚い信頼が技を育て支えてきたのです。「輪島塗」もまた重要無形文化財に指定され、輪島塗技術保存会がその保持団体として認定（1977年）



図6 前 史雄（1999 年認定）
《春愁文沈金漆箱》



図5 塩多慶四郎（1995 年認定）
《乾漆器と銘々盆》



図4 前 大峰（1955 年認定）
《沈金猫之図大皿》



図9 西 勝廣（2024 年認定）
《沈金箱「日和」》



図8 山岸一男（2018 年認定）
《沈金象嵌色紙箱「好日和」》



図7 小森邦衛（2006 年認定）
《網代重箱》



図10 津軽塗技術保存会（2017 年認定）
《八角五段重箱「季節」》
（津軽塗技術保存会蔵）

会期中のイベント
講演会「重要無形文化財制度と戦後の漆芸」
講師…山崎剛（石川県輪島漆芸美術館館長）
日時…9月13日（土） 13時30分～15時
会場…講義室
聴講無料

同様に、青森県弘前市では津軽塗技術保存会（図10）が「津軽塗」を守り伝えています。江戸時代から続く変塗（かわりぬり）に研究を重ねることでデザインの多彩さと丈夫さを兼ね備えた、他に類を見ない漆器といえるでしょう。技の持つ歴史や背景に最大の敬意を払い、作り手が全身全霊をかけた漆芸作品の魅力は語りつくせません。技と人が織りなす漆の世界を、ぜひ間近にご覧ください。（敬称略）
〔寺尾藍子〕

ミュージアムショップ からのおしらせ

わんじまグッズや2025Tシャツ販売中です。

コースター



ブローチ



わんじまTシャツ 2025



FRONT



ボールペン
シャープペンシル



開催中!

わんじま展最新情報は
公式ウェブサイト、
または SNS で

Instagram



X



歴代グッズが
展示で勢ぞろい!

新作グッズも
ショップで続々販売!

これまでのあゆみを
総まとめ!

参加型イベントも
企画中!

わんじま展

石川県輪島漆芸美術館 1 階 🍷 入場無料

輪島漆芸美術館友の会 夏季見学会実施報告

【輪島漆芸美術館友の会 夏季見学会】

6月21日（土）

参加者：27名

行先：石川県立図書館（見学）

石川県立音楽堂（観劇）

友の会では例年、会員の交流を図ると共に芸術文化に親しむことを目的とした、日帰り見学会を実施しています。今回は行先を金沢に定め、6月21日（土）に、石川県立図書館と石川県立音楽堂へ行ってきました。

最初の目的地、石川県立図書館（愛称：百万石ビブリオバウム）は2022年に金沢市小立野に移転・開館しましたが、まだ行ったことがないという会員の声もあり見学先に決定しました。開架冊数は約30万冊ということで、滞在時間が40分程度しか取れないのが残念でした。2階の企画展示コーナーでは「となりのモノノケ」展が開催されており、人を化かすと言われる狸と狐の剥製の他、「モノノケ」に関する書籍によってもテーマが紹介されているのが図書館ならではの展示でした。円形に配置された書架が吹き抜けにより見渡せる館内は壮観で、参加者の皆さんは企画展示を見たり、館内を散策したり、お目当ての本を探したり

と、銘々に楽しまれました。

石川県立音楽堂では、「萬斎のDENGEIラボ」（総合演出：野村萬斎）による「邯鄲—KANTAN—」を観賞しました。中国唐代の小説『枕中記』の「邯鄲の夢」を下敷きにした能の演目「邯鄲」と芥川龍之介の『黄梁夢』、さらには狂言「唐人相撲」、シェイクスピア『ハムレット』の作品世界を融合したと謳っていた通り、能、狂言、演劇の見どころが凝縮された舞台でした。誇張した表現による狂言の笑いの中に、人生の儚さについて考えさせられる「邯鄲」の物語が展開され、参加者の皆様からは、「面白かった」「人生について描かれていたのが良かった」といった感想が寄せられました。

友の会の見学会で観劇するのは初めてのことと、文化・芸術に触れる日帰り旅行を通して気分転換ができればという思いで企画しましたが、観劇はもちろんのこと、旧交を温めることができて嬉しかったという声もあり、今後またこのような機会を作っていきたいと思いを新たにしました。ご参加いただきました皆様、誠にありがとうございます。秋にはまた日帰り見学会の他、ワークショップなどのイベントも準備しておりますので、ぜひご参加いただければと思います。〔河原法子〕



石川県立図書館



石川県立図書館「となりのモノノケ」展

わんじまふれあいタイム 「わんじまと一緒に記念撮影をしよう！」

8月2日(土)

①10:00(10:10受付終了)

②14:00(14:10受付終了)

会場：エントランスホール

参加無料

スマホ、デジカメ等
をお持ちください



ワークショップ 「わんじまストラップをつくろう」

8月16日(土)

①10:00～12:00 ②13:00～15:00

会場：講義室

体験料：1個200円*数に限りがあります

随時受付・予約不要

所要時間10分



イベント情報

夏休みの宿題に
オススメ

アート&ポエムコンクール2025 作品募集

美術館で好きな作品を選んで、感じたことを
詩や短い文章とあわせて絵に描こう！
応募作品は秋に美術館に展示されます。

対象：輪島市内の小学生

メ切：9月1日(月)

(学校に提出してください)

※詳細はHPをご覧ください

重要無形文化財保持者認定70年
漆芸の人間国宝たち 関連イベント

講演会

「重要無形文化財制度と戦後の漆芸」

講師：山崎剛(石川県輪島漆芸美術館 館長)

日時：9月13日(土) 13:30～15:00

会場：講義室

聴講無料

施設情報

開館時間 9:00～17:00(入館は閉館の30分前まで)

休館日 展示替え期間、年末休館

※その他、修繕工事のため臨時休館となる可能性があります。
来館前には当館公式ウェブサイト、SNSにてご確認ください。

交通案内 *所要時間は道路状況により前後する可能性があります

●のと里山空港から 車(約30分)

●金沢駅から 北鉄バス輪島特急線を利用
(輪島ふらっと訪夢 輪島駅前まで約3時間)

●金沢市内から 車でのと里山海道を利用(約2時間)

●「道の駅・輪島ふらっと訪夢 輪島駅前」から 徒歩(約25分)

入館料

	個人	団体(20名以上)
一般	630円	520円
高大生	320円	210円
小中生	150円	100円

〒928-0063

石川県輪島市水守町四十苅11番地

TEL 0768-22-9788

FAX 0768-22-9789

www.art.city.wajima.ishikawa.jp

